

情報通信審議会 情報通信技術分科会 衛星通信システム委員会
ヘリサット作業班（第3回）会合 議事概要

1 日時

平成21年4月22日（水）10時00分から10時50分

2 場所

総務省10階 共用10会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

（1）構成員

服部 武（主任）、佐藤 正樹（主任代理）、芦屋 秀幸（代理：日高 良一）、
荒井 浩昭、安藤 清武（代理：田島 慶一）、大串 良昭（代理：清水 秀雄）、
大西 弘幸、尾崎 裕、桐山 勉、作田 吉弘、塩谷 淳一、中村 俊男、
鞠子 弘喜、三木 圭輔、渡邊 聡一

（2）事務局

衛星移動通信課 新田企画官、永田課課長補佐、田野係長

4 議事概要

資料配付の確認が行われ、以下の議題について議論が行われた。

（1）平成20年度技術試験事務の実施内容について

事務局から資料3-1に基づいて説明が行われ、以下の質疑応答があった。

- これまで2回の作業班において、いわゆる標準レベルの動画伝送が可能なシステムについて検討を行ってきたが、今後の位置づけとスケジュールはどのようになっているのか。
- 前回までの作業班においては、いわゆる標準レベルのシステムについてご検討いただき、本年1月に情報通信審議会において一部答申をいただいているところ。
一方、高画質伝送についてもニーズが高まってきていることから、総務省において技術試験事務を実施しており、今後の作業班での検討にあたって必要な技術的項目について御議論いただきたい。
- これまでの検討においても、ビットレートと画質についての議論があった。今回、高画質というものの定義は国際的に認められたものなのか。
- ITUの勧告で、HDTVの定義があるので、それを踏まえた形で検討していきたい。
- 情報速度は、誤り訂正符号等の冗長ビットを除いて10Mbpsなのか。
- 映像及び音声等の情報速度として10Mbpsであり、誤り訂正符号等は含まれない。
- 符号化率可変技術については、ブロッキング率が低いときは低C/Nでよいため平均誤り率は改善すると考えられるが、ブロッキング率が高くなった瞬間の画質は劣化するのではないか。
- バースト長の可変は、画質のビットレートではなく誤り訂正符号の符号化率

を可変しているため、画質の変動はない。

- 低 C/N では、ご指摘のとおり回線品質は劣化する。
- 運用する側としては、C/N を気にしながらヘリコプターを操縦するわけにもいかないなので、回線品質がいいときは高画質になればいいぐらいの考えである。
- 放送用途等では、低 C/N でも画質を満たすような回線設計を行う必要がある。
- 運用の仕方を想定した検討が必要。

(2) 今後、検証及び測定が必要と考えられる技術的項目について

事務局から進め方について説明が行われ、以下の質疑応答があった。

- 消防庁などでは、運用条件などもあるかと思うがそのようなものも回答してよいのか。
- 運用条件を満たすための技術的項目があるかと思うので、それを記載していただければ事務局において検討したい。
- 標準画質の技術的条件と高画質の技術的条件との対比表が有用と考える。
- 参考 3-1 の平成 20 年度技術試験事務報告書 68 ページに、20 年度に実施したもののうち標準画質から変更する必要がない技術的条件が記載されている。

また、技術的項目について以下の議論が行われ、今後、提案がある場合には 5 月 11 日までに事務局あてに回答することとなった。

- 商業用か実験用かで設備に課される条件が大きく変わるため、商業用として開発を進めていくのであれば、航空法等の関係法令の基準に合致する設備を作る必要がある。
- ユーザー側からすると画質が重要であるが、占有周波数帯幅等の前提条件があるので、それらを踏まえた検討結果が出るとよい。
- 昨年度の検討では、ブレードの遮断を想定して調査検討が行われているものの実環境ではないので、実際に遮断がある環境での検証と評価が必要と考える。また、遮断が生じる環境において、ハブ局からヘリ局への送受信を組み合わせた検証も必要ではないか。

<配付資料>

- 資料 3-1 平成 20 年度技術試験事務実施概要
- 資料 3-2 今後、検証及び測定が必要と考えられる技術的項目について
(回答様式)
- 参考 3-1 ヘリコプターからの HDTV 伝送 (高画質伝送) のための衛星通信技術に関する調査検討報告書
- 参考 3-2 ヘリサット作業班構成員名簿